

ISSN 0910 - 2396

# 野鳥 —北海道— だり

第 6 0 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 昭和60年6月21日



キビタキ 84. 5. 26 円山公園 撮影 関口健一



# もくじ

- 私の探鳥地(円山)..... 2
- 全国野鳥保護のつどいについて..... 3
- 藻岩→武蔵野..... 3
- 昭和60年度総会経過報告..... 4
- 鳥学コーナー..... 5
- 探鳥会報告..... 6
- 探鳥会案内..... 10
- 60年度探鳥会予定表..... 11
- 鳥民だより..... 11

## 私の探鳥地

円山 白澤 昌彦

### ◆場所

札幌市中央区に位置しており、北登山道入り口へは、地下鉄円山公園駅から徒歩で10分程度で行けます。私は、自宅の場所の関係と登山者が極めて少ないことから西登山道を歩いて探鳥していますが、こちらへは、円山動物園との境界沿いにある自然歩道(約1km)を探鳥しながら行けます。

### ◆概況

円山は、天然記念物に指定されています。山は原始のままの姿でのこされて、大木も多く、日曜日などは家族連れのハイキングで賑い、山頂からは市内を眼下に展望することができます。

### ◆思い出

私は、愛護会に確か49年頃入会しましたが、この当時は、鳥を見るより鳥の写真を撮るのが第一で、このため探鳥会に出たことはなく、1人であちこち写真の撮れそうなところを捜し回っていたものです。

そのうちに、円山は自宅から近く鳥の種類も豊富なことがわかり、その頃から400ミリのレンズをかかえて鳥を見に行ったものです。

円山を探鳥し始めた頃は、鳥を余り知らなかったことから、コルリの声をコマドリとったり、

①

口笛のような鳴きをする鳥がトラツグミであることを発見したり、初めて見るルリビタキの美しさに感激したり、ヒヨドリが停空飛翔をしながら枝についたツララの先のしずくを飲んでいるのを見たり、鈴のような鳴声の鳥がヤブサメであることを知ることになり日数を要したり、クマガエラに出会って興奮してシャッターを

切ったことなど数々の懐かしい思い出のあるところです。

### ◆見られる鳥

春～夏 キセキレイ、カワラヒワ、アオジ、センダイムシクイ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、キビタキ、オオルリ、コルリなど  
 秋～冬 カラ類、アカゲラ、ヤマゲラ、マヒワ、ウソなど。

(札幌市中央区南17条西18丁目)



## 「全国野鳥保護のつどい」について

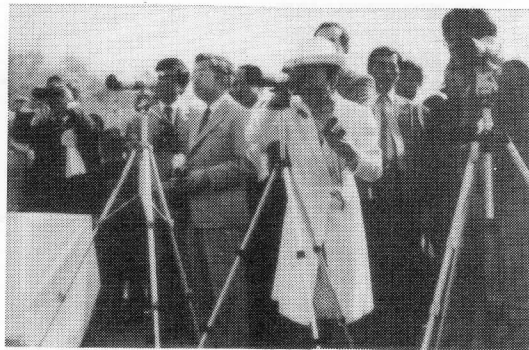
第39回愛鳥週間中の5月12日に「全国野鳥保護のつどい」（北海道、環境庁、日本鳥類保護連盟共催）が、野幌森林公園であり、常陸宮殿下、同妃殿下や石本茂環境庁長官をはじめ、全国から1,800人が出席して、記念式典、記念植樹や探鳥と放鳥（エゾライチョウとオシドリ）などが催されました。

記念式典では、野鳥保護に功績のあった団体や個人が表彰されました。本道関係では、連盟総裁賞が井繁さんに、環境庁長官賞が大西重利さんに、文部大臣奨励賞が北見市立常川小学校に、林野庁長官感謝状が三浦二郎さんに、環境庁自然保護局長賞が道立向陽学院に、日本鳥類保護連盟賞が新冠町立明和小学校に、また、同連盟会長褒賞が江別市立江別太小学校と吉沢貞一さん外14名の方に贈られました。大部分の方も本会に縁の深い方です。

5月11日には、札幌市民会館で、芥川賞作家の加藤幸子さんの講演と札幌のコンサートでつづる前日祭が開かれ、つどいを盛りあげました。

なお、これらの催しには、本会も協力団体として参加し、特に、期間中に開拓記念館で開催された「北海道の野鳥展」のディスプレイ表示の企画や、写真出品、12日に開かれた早朝探鳥会や、宮様の探鳥会でのガイド役などで大きな役割を果たしました。

会員の小沢さんの関係する小鳥の村の鳥みこし（藤の沢小学校）、柳沢さんの関係する豊滝小学校の児童たちもアトラクションなどに参加し式典を盛り上げました。



瑞穂池の探鳥風景

（村野 紀雄）

## 藻岩山→武蔵野

平井 さち子

昨年10月末に札幌に初雪があり、そのあとは暫らく小春日和が続いた。久しぶりに東京から藻岩山麓の自宅に戻り、庭の落葉を掃き集めると忽ち大きな山がいくつも出来た。毎年エゾリスの為にクルミの実を集めるのも庭掃きの一つの目的なのだ。庭の端の山ブドウとナナカマドには、早朝からツグミの群が賑やかに集まり、飛び交い、なき交わしつつ山腹ぞいに南へ移動していく。オニグルミの幹にとりついて丹念につづいているのはオオアカゲラ。相変わらず彼の真赤なベレー帽には惚れ惚れする。テラスに餌箱を用意すると、待ちかねたようにシジュウカラを皮切りに、ハシブトガラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、ヒヨ、カケス、アカゲラなど飛来し、忽ち例年と同じ風景になる。

そんなある朝、ふとオンコの木の下に動くものを見つけた。懐しいエゾライチョウ氏ではないか。毎年1～2回は来てくれる。このごろとみに減ったという声を耳にするが、彼等の生息地の確保に目を向けるべきだろう。

ところで野鳥だより編集部よりのご注文は、札幌と東京との二重生活者として何か書くようにとのことだが、東京の住居は武蔵野の俵が比較的残されている処といわ

れているが、やはり東京は東京でしかない。それでも小庭に餌台を設けた。寒に入ってから急に客人が増え、シジュウカラ、ヒヨ、キジバト、スズメが主賓。但しスズメは芝生にまいたパン屑など地上の餌を専門に食べている。時折ツグミやカワラヒワ、ジョウビタキも来てくれる。向かいの家の雨桶は彼らの水飲場だ。美声とはいえないが、オナガの十字形の美しい飛翔は、北海道では見られないものである。この寒さがすぎるところは、門前の玉川上水の茂みに、笹鳴の音が洩れ“チョット来い、チョット来い”とけたたましくコジュケイが呼ぶようになる筈である。そういえば去年の夏、たった一度きりだったか夜空をなきとぶホトトギスの声を聞いた。今年は何が来てくれるだろうか。少年時代をこの地で育った夫は、昔はカッコウもうるさい程なっていたのに——という。

昨日は霜柱を踏んで徒歩5分で行ける井の頭公園の池を観に行つた。池の端の木立にカワラヒワが100羽ほど。池は一部氷結していたが、オナガガモが一番多く1000羽位だろうか。続いてカルガモが多く、マガモ、コガモ、カイツブリも。ふと何処から飛びたったか9羽のゴイサギが頭上を過ぎマンションの向うへ消え去った。

〒181 東京都三鷹市下連省2-120

# 昭和60年度 総会経過報告

と き 昭和60年4月20日(土) 午後2時～3時40分  
 ところ 北海道婦人文化会館

総会にあたり柳沢信雄副会長を満場一致で議長に選出し、菅野会長出席のもとに審議が進められ審議の結果、原案どおり可決されました。

(議 事)

1 昭和59年度事業報告

(総 務)

- (1) 野鳥写真展の開催
- (2) 新年懇談会の開催
- (3) 腕章の作成
- (4) 絵はがきの作成
- (5) 障害保険の更新
- (6) 定例幹事会の開催 (12回)
- (7) 野鳥だよりの郵送 (4回)

(探 鳥)

- (1) 探鳥会の開催 (17回) 59年4月22日～60年3月31日まで
- (2) 探鳥会記録集台本の作成

(広 報)

- (1) 野鳥だよりの編集および発行 (56号～59号)
- (2) 会員名簿の作成
- (3) 入会申込書の作成
- 2 昭和59年度会計報告 (別表のとおり)
- 3 昭和59年度監査報告

<監 査>野村梧郎氏から適正且正確であるとの報告があった。

4 昭和60年度事業計画

(総 務)

(1) 新年懇親会の開催

(2) 野鳥写真展の開催

(3) 絵はがきの販売計画ならびに実施

(4) 障害保険の更新

(5) 定例幹事会の開催

(6) 野鳥だよりの郵送

(探 鳥)

探鳥会の開催

前年度と同様の時期、場所で行われる。

(広 報)

野鳥だよりの編集および発行 (60号～63号)

5 昭和60年度予算案 (別表のとおり)

6 役員選出

役員選出については、平井さち子氏、屋代育夫氏、横田通典氏の退任に伴い、新幹事に戸津高保氏、武沢和義を選出し、引きつづき第1回幹事会を開催、担当を次のとおり決定した。

会 長 菅野寿衛吉

副会長 谷口一芳、柳沢信雄

監 事 新官康生、野村梧郎

代表幹事 小堀煌治

会計幹事 柳沢千代子

総務幹事○大坊幸七、片岡秀郎、岩泉ゆう子、清水朋子、柳沢千代子(兼)、小堀煌治

探鳥幹事○道川富美子、早瀬広司、長谷川涼子、堀内進、富川徹、中野高明、関口健一

渡辺紀久雄、戸津高保、渡辺俊雄

編集幹事○霜村耕一、白澤昌彦、羽田恭子、萩千賀、紅林雅文、武沢和義、村野紀雄

猿子正彦 (○印は各担当の代表者)

昭和59年度決算書・支出の部

区 分	決 算 額	予 算 額	摘 要
印刷費	495,520	520,000	野鳥だより 350,000 会員名簿60,000 入会案内20,000 封筒その他 65,520
通信費	232,310	250,000	野鳥だより発送 203,060 探鳥会PR用他 29,250
会議費	99,972	140,000	総会 11,250 幹事会 36,399 新年懇談会他 45,500 編集会議 6,823
消耗品費	48,880	46,000	腕章 19,250 コピー代他 29,630
賃 金	17,360	20,000	野鳥だより発送
報償費	124,120	155,000	探鳥会手当て
その他	54,300	409,000	写真展費用、 保険
合 計	1,072,462	1,540,000	

昭和59年度決算書・収入の部

区 分	決 算 額	予 算 額	摘 要
繰越金	616,790	616,790	
会 費	644,100	658,500	405人 8団体
寄付金	500	10,000	1件
参加費	33,100	40,000	新年懇談会 18,000 藤の沢 15,100
売上金	206,640	210,000	野鳥だより 200,000 テキスト等6,640
雑収入	31,702	4,710	写真展補助金 20,000 預金利息11,702
計	1,532,832	1,540,000	
会 費 仮受金	69,000	0	
合 計	1,601,832	1,540,000	

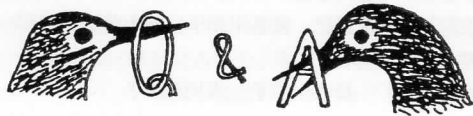
昭和60年度予算書・支出の部

区 分	予 算 額	摘 要
印刷費	468,000	野鳥だより 368,000 封筒 他 100,000
通信費	200,000	野鳥だより郵送 150,000他
会議費	110,000	総会、幹事会、役員会
消耗品費	40,000	コピー等事務用品
賃 金	20,000	だより発送
報償費	150,000	探鳥会手当て
その他	382,000	保険・写真展
合 計	1,370,000	

昭和60年度予算書・収入の部

区 分	予 算 額	摘 要
繰越金	460,370	
会 費	652,500	420名 5団体
寄付金	5,000	
参加費	40,000	新年懇談会 他
売上金	205,000	野鳥だより 200,000他
雑収入	7,130	
合 計	1,370,000	

# 鳥学コーナー



問 ヒヨドリの尾はあとから生えてくる？

庭の木の枝にリングやミカンを刺し、餌台を置いて野鳥を眺め楽しんでおりますが、ある時、数羽のヒヨドリの群れの中に見馴れない1羽を発見。羽毛をふくらませ尾のないお尻を左右に振りながら忙しく動いている姿は、一瞬新顔かと胸をおどろかせましたが、よく見ると尾がないだけでまぎれもなくヒヨドリでした。その姿は妙に頼りなく他の仲間が満腹して飛び去っても松の枝に羽を休めていることが多いので、いつしかピーちゃんとな付けて家中で親むようになりました。

ある日のこと、突然2センチ位の尾をつけてピーちゃんが現われ、皆を驚かせました。そして日を追うごとに仲間と見分けがつかない程長くなり、違うのは、ピーちゃんと呼ぶとピーヨと美しい声で返してくれて2メートル位まで近づいても許してくれることでした。ピーちゃんも夏が近づいた頃いつの間にか姿を消し、そして忘れかけ

た翌年のある朝、やはり尾のないヒヨドリが1羽仲間達と餌台にいるのが見えました。この鳥も数日で尾が長くなり、前年と同様に見事に変身しました。

ヒヨドリの尾があとから生えてくるなど、どの野鳥の本をひっくり返しても一行も書いていないのです。ご存知の方にぜひ教えていただきたいと思います。

(函館市 白井 とし子)

答 尾羽は何かの事故で抜けると、また生えてきます。ネコに尾を押しえられたとかいったことが原因と思われる。

翼のうちの初列、次列、三列風切羽、それに尾羽は骨格から生えています。他の羽毛は皮ふから生えています。それだけ鳥にとって大切な羽根という訳です。

尾羽が中ばで折れた場合は、抜けかわりません。あくまで根元から抜けた場合に生えてきます。

年1回、秋にからだ中の羽根を換羽します。この時にも当然、尾羽は抜けかわりますが、それ以外の時期でも事故があつて根元から抜けてしまった場合には、随時、新しい羽が生えてきます。



野幌森林公園

60.2.24

井上 公雄

例年ならば真冬という時季、今年はこの季節には珍しい暖気が続き春の気配が感じられ

る穏やかな快い一日であつた。会へ仲間入りさせて頂いて野幌は何回か歩いて居るが真白い雪の原生林にスキーで入るのは初めてである。

ちょうど歩くスキーの会も催され我々の探鳥コースも

今日ばかりは専用という訳にもいかない。暫く、元気？と声をかけ合つての再会の喜び。スキー組は早くも林の中へと歩き始める。今年は珍しい鳥を見かけたという情報も少いと聞く。果して今日とはどんな出会いがあるのだろうか。稀少珍種にお目にかかりたいものだという期待感には私だけなのだろうか。コゲラ、ヤマゲラ、ハシブトガラ等が無心な姿を見せ始め時には可愛らしく時には軽快に春の訪れを告げる様に囀りの練習に入っている様子を見せ始めました。暫く行く中にトド松の散在する梢附近からツツッチチーとそれはいかにもその声で可愛らしさを想い浮べられる様な、早速姿を求めて梢へ視線走らせる。素早く道川さんがキクイタダキの存在を捉えて懸命に指導して下さる。仲々応えられないお互いの心にもどかしさが寄切る、一人三人と探し当てた喜びの声が上がる。私には仲々見つからない。ようやく探し当てたのも束の間何処へともなく姿を消してしまった。日本最小の野鳥との出会いは又の期待と余韻を残して私にとって貴重な初対面となった。ポツポツと歩くスキーの先頭グループに出会う様になって間もなくツツーチチーと先ほどのキクイタダキ等の混成合唱の様な可愛らしい声に一齐に双眼鏡を覗く。毎度お馴染みのハシブトガラ、ヤマガラ等は見かけても声の主は見当らない。そんな中に上空で自分の存在を誇示するかの様にオオタカが雄然と舞っている。時折近隣のトビを威嚇（他の意志？）する様な仕草も見

せながら視界から遠ざかって行った。強さの自身なのだろうか飛ぶ姿にも威厳を見る者に残して行った様な気がする。快い汗を流しながら可愛らしいキクイタダキ、大空の雄者オオタカ、枝幹に真白い雪を背景に赤と黒の鮮かなコントラストを見せてくれたアカゲラ、小枝へ小さなボンボリを連想させてくれたエナガの可愛らしい姿等は脳裡のビデオにシッカリと納め次の出会いにはどんなドラマが待って居るのだろうか……自然の営みとの触れ合いに健かな喜びを覚えた。全般的に暖気の続く中、コースも程良く踏み固められ素歩きの人達も用意したカンジキのお世話にもならず却って荷物になった事はむしろ幸いだったと思う。

〔記録された鳥〕 トビ、オオタカ、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、キクイタダキ、ハシブトガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上15種

〔参加者〕 柳沢信雄・千代子、戸津高保・以知子、早瀬広司、佐々木武巳、長谷川涼子、井上公雄、道川 弘・富美子 以上10名

〔担当幹事〕 長谷川涼子、道川富美子

札幌市中央区南6条西11丁目 共済ハウス2F

## 円山公園

60.3.3

## 村山 剛

私は野鳥愛護会には入っていないのですが、今日は会のメンバーである叔父達に誘われ、二ヶ月ぶりの円山公園探鳥会でした。

私は現在弘前大学に在学しており、大学の野鳥の会の会員です。野鳥の会の弘前支部の人達とは行動を伴にする事も多く、先月のオジロワシ・オオワシ調査にも同行させていただきました。

さて、今日の天気は上々、時折小雪も散らつきましたが、陽も射す割と暖かい日でした。弘前でも私の参加する探鳥会は大抵晴れだったので、今日も例にならったのでしょうか。今日はハイタカなどの20種類の鳥達が観られました。円山公園は鳥がとても近くで見られ、春にはかなりの種数も出る良い探鳥地だと思います。

私の実家は円山公園のすぐ裏、円山西町にあります。私が最初に探鳥会というものに行ったのも、ここが初めてで、私が小学生の時ですから、もう10年以上の昔の事です。当時と比較して公園の周辺はかなり都市化が進ん

だ様ですが、公園の内部はそれ程変化が無いみたいです。では、公園に来る鳥達はどうか？連雀やウソは多い年が在りますが、全体としてはそれ程変化して居ない様に思えます。

私は最近、あまり多勢の探鳥会は、鳥を驚かすだけなので殆んど参加していなかったのですが、たまにはたくさんの人達と行くのもいいものですね。まあ、少人数で行くにせよ、多人数で行くにせよ、鳥を驚かしたり邪魔したりしないというのが、探鳥のエチケットですから。

弘前では、北海道では観られない様な鳥達もかなり有り、今年はじっくり探鳥を試みたいと思っています。また、何かの機会に私が札幌に帰って来た時は、愛護会の皆様と御一緒させていただきたいと思っています。

〔記録された鳥〕 ハイタカ、ヤマゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、キレンジャク、ツグミ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、アト

リ、カワラヒワ、ウソ、シメ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、以上20種

〔参加者〕 戸津高保・以知子、谷口一芳・登志、武沢和義・佐知子、長岡宏幸・範子、泉屋宜志・恵津子、堀内進、曾根モト、村山剛、大坊幸七、長谷川涼子、屋代育夫、山崎カツエ、早瀬広司、岩泉ゆう子、井上公

雄、野口正男、佐々木武己、野々村菊、道川富美子  
以上24名

〔担当幹事〕 早瀬広司、道川富美子

〒036 青森県弘前市城南1丁目13-1

コーポラスサンライフIII-201

## ウトナイ湖

60.3.31

田中 金作

私の家で秋にベランダ前の庭にバードテーブルを置いてエサをやっていたら、スズメからはじまりヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、アカゲラ、シジュウカラ、コウライキジ、シメなど野鳥が来て、冬を楽しませてくれました。

道新に、北海道野鳥愛護会でウトナイ湖探鳥会の記事を読み妻と参加してみようという気になり、その日天気予報も雨か雪という空を気にしながら愛車を運転して、ウトナイ湖の集合場所に向かった。

湖畔はきびしかった冬の氷もとけて、ハクチョウやカモの群れが、鳴き声をあげて人間にエサを求めて岸辺に寄っているのが印象的にみえた。私は、水鳥に知識がないので、ハクチョウは同じ種類のものばかりとと思っていましたら、よく観察するうちにオオハクチョウ、コハクチョウ、コブハクチョウ、とそれぞれ特徴があることがわかりました。

岸辺を離れて群れをなしているカモ類のどれをみてもよく似ていて種類の見分けがつかない。しかし、ベテランは、鳥の特徴を見分けるのも早く、数の少ないといわれるミコアイサ、ウミアイサ、アメリカヒドリ、や遠方の湖岸に翼を休めているオオワシ、オジロワシもなんなくみつかる。

オオワシは翼を広げると、2メートルを越すものいるといわれる。湖面に群れをなしているカモが、オオワシの気配を感じてか一斉に飛び立つ、それを追って悠然とはばたくオオワシの姿は雄壮で、自然界では食うものと食われるものの宿命でないかと感じた。

北から冬の使者として飛来していたハクチョウ、オオワシ、オジロワシなどもやがて故郷のシベリヤに旅立つところ、ウトナイ湖も春たけなわとなることであろう。

私は初めて探鳥会に参加させて貰いましたが、あいにく天候も悪く寒い日であったが、しかし30種類も確認でき野鳥の美しさや自然のすばらしさ堪能した。

〔記録された鳥〕 アオサギ、マガン、ヒシクイ、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、トモエガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、オナガガモ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、ミコアイサ、ウミアイサ、カワアイサ、トビ、オジロワシ、オオワシ、シロカモメ、カモメ、ハクセキレイ、ツグミ、ハシブトガラ、シジュウカラ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、(コブハクチョウ) 以上30種

〔参加者〕 浪田良三・典子、谷口一芳・登志、泉屋宜志・恵津子、柳沢信雄・千代子、戸津高保・以知子、渡辺紀久雄・久美子、安田晃子・稔・泰章、梁田友道・佐貴子、田中金作・礼子、山崎カツエ、園部恭一、薄田シズエ、羽田恭子、土田光子、井上公雄、福岡研也、木田恵美、袋畑義則、村山剛、安藤正治、佐藤恵文、高坂美和子、野々村菊、佐々木武己、石谷義一、曾根モト、清水朋子、屋代育夫、道川 弘・富美子 以上40名

〔担当幹事〕 屋代育夫、道川富美子

〒061-21 札幌市南区川沿5条3丁目3の22

## 野幌

60.4.21

工藤 信市

アッ、あの枝に鳥が、という声にどこだどこだと双眼鏡をさっと向ける。

いかにも慣れた風だけれど、もたもたと、完全に方向がずれていて、枝や木の葉が見えるばかり。うーむ、又見逃した。それに引替え、みなさんは素早く、シジュウだ、ゴジュウだ、シメだわなどと詳しい。私もふむふむとついて歩く。足下にエゾエンゴサクが咲いている。ウグイスがホケキョウと鳴き、さあっとかけ(?)ぬけてゆく。ほおー。

山や緑が好きでよく歩くけれど、その中で花や樹や空を眺め、鳥の声を聞いているだけで気持ちがよかった。

鳥の名前は知っていてもどんな鳥か姿はあまり知らない。少しは知っている方がより楽しいだろうと、本日の探鳥会初参加。

緑の中になると、空気と土と水と緑、動物達総てで一つということがよく分る。

道端の小さな花も可憐で、やはり鳥も花も木もあるべき所にあつて、愛らしく美しい。

風も心地良く、老いと若きと中間が(失礼)あちらこちらと立止まり、見上げ、足下の小さな花を見つけては、ああ、こうだといいつつ歩く。

終点。

双眼鏡を使うのが下手で、しっかり姿を目に入れたのは数少なくて探聴会といった感じだったけれど、いろいろな鳥の声を聞かされただけで満足。

よく散策するこの森林公園にこんなに多種類の鳥がいたとは知らなかった。

足を使い、酸素をたっぷりとり入れ、緑を目にし、鳥の声を聞き、心も体もリフレッシュ。

次はどの林でどんな鳥に会えるのだろうか。

(記録された鳥) アオサギ、トビ、ハイタカ、キジバト、アカゲラ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ

リ、ツグミ、ウグイス、キクイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス

以上27種

(参加者) 高田雅之・早苗、宮田 久、佐々木武己、宮西佳広、浪田良三、田村春美、二上 篤、田辺 至、井上公雄、曾根モト、有田智彦、篠尾好枝、梅田利一、豊田年宏、戸津高保・以知子、早瀬広司、佐藤幸男、野口正男、大坊幸七、野々村 菊、泉屋宣志・恵津子、谷口登志、高倉龍文、工藤信市・恵美子、長谷川涼子、以上29名

(担当幹事) 早瀬広司、長谷川涼子

〒069-01 江別市大麻宮町4 公団15-201

## 野幌

60.4.28

## 高田雅之

野幌への探鳥は今回で4度目である。野幌は僕にとって、侵入する毎に、いろんなことを教えてくれるいわば「先生」である……と勝手に自分で思い込んでいる。野幌先生は、決して親切ではないように思われるが、寛大であり、様々な自然講座の解釈の糸口を与えてくれるようである。まだ入学したてながら、野幌先生から学んだことをいくつか、この機械に振り返ってみようと思う。

まず第1には、僕に夏の鳥の代表メンバーを初めて紹介してくれたことである。(この辺はさすがに新入生に対して親切である。)オオルリ、キビタキ、クロツグミ、カッコウ、センダイムシクイ etc など、森のオーケストラの各パートリーダーがそれである。

第2には、探鳥の醍醐味を教えてくれたことである。某鳥が視界に入った時、僕は必ず「もしかして」と、いろんな鳥を想像する。さて解答はと、双眼鏡をのぞいてみると、だいたいにおいて、珍しい鳥を想像しがちな僕は、はずれることが多いようである。当たった時は、思わずヒジでバンザイ！(双眼鏡を持っている部分は動かさないで。)はずれてがっかりしても、心のどこかには、“幻の鳥はずっと幻の鳥でいてほしい。めったに現れなくてよかった。”という安堵感があるようである。そして今回の探鳥会で学んだ3つめの単位は、生きている森の季節という衣装である。確かに夏鳥もまだ定位置についてない、花も咲きそろっていない、新緑とも言い難い今回の野幌探鳥会であったが、初夏の息吹きをきちんと感じさせてくれたような気がする。夏への衣替えを完成させる一歩手前、月見で言えば十四夜とも言うべき充

実した自然を教わったのである。時折り通り過ぎるカラの群れも、針葉樹林に踊ったキクイタダキ、コガラ、キバシリの小兵達も、発声練習中のウグイス、アオジ、ヤブサメ達も、この季節感に色を添えた、野幌先生のサービスピ精神旺盛さの故であったのであろう。

さて、野幌先生の講義も、ますますおもしろ味を増してくるかどうか、今後の僕の熱意次第であらうか。

(記録された鳥) カイツブリ、トビ、キジバト、ヤマゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、トラツグミ、クロツグミ、ツグミ、ヤブサメ、ウグイス、キクイタダキ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、ウソ、ニューナイスズメ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ワシタカSP 以上33種

(参加者) 本多 進・静子、沢田宏子、加納 真、小林裕子、福岡研也・玲子・正樹、松本英伸、小笠原のり子、紅林雅文・さやか・寿々子・幸子、清水 幸・朋子・亜樹子、高田早苗・雅之、野口正男、大坊幸七、浪田良三、安部泰子、戸津高保・以知子、伊沢雅子、佐々木武己、玉山 武、井上公雄、澤田幸子、高倉龍文、田中金作、吉田千恵子、羽田恭子、田中礼子、田辺 至、柳沢千代子、長谷川涼子、以上38名

(担当幹事) 柳沢千代子、長谷川涼子

〒062 札幌市中央区南20条西5丁目  
中神マンション4のE



12年振りの宮仕えで札幌に移って来たのが4月4日。身辺がようやく見えはじめた時、この会の記事が眼にとまった。近くの自然を知るよき機会と、仮住いをした宿に頼んだニギリをもって何はともあれ集合地に赴くこととする。

近い鳥はアホウドリとオオミズナギドリのみ。飛ぶことに熱中していた頃、会社をたたんでアホウドリを見に釧路フェリーに乗った。悠揚迫らざるクロアンアホウドリの飛翔姿が襖裏に焼きついたのが始まりで、以来6年間彼女達のダイナミック・ソアソングを研究してきた。機械工学を専門としているが、自然から学ぶ素晴らしさを知ってとてもよかったと思う。感動した一つは、オオミズナギドリの大コロニーの御蔵鳥のキャンプでの調査中のこと。つかまえようと身を屈めてソロリソロリと背後から近づいていると、背中をよじ登る奴がいる。驚いて身を回すと、振り落された彼女もビックリしてこちらを見ているのであった。

と思い出しながらさて当日。前日とうって違って風強く気温低し。当地の気象にはまだオロオロさせられる。弁当を摘まみ食いで帰るか、いや少しでも一緒に歩いてからにすればいいさと、寒さ等素知らぬ顔のなごやかなスタートに身を委ねる。最初の出会いはアマナ=アズキナ。ビニール袋に詰め込んだオバチャンに教えてもらう。これは後日、羊蹄山の麓で腹一杯食した。ウグイスだ、×××だ、△△△だ、という声はすれども見当らず。トンビを覗いて鼻をすする。が、やがて、長谷川さんをマークしていればよいことに気づく。色も特徴もわからないがニュウナイスズメをとらえる。逆さに止って木を巻いて歩くナントカジュウカラに記憶の糸をたぐり、巣穴に出入りする2羽の〇〇〇の名前を憶えようとする。鳥が出なければ草花を愛でる同行の方々についつい食べられる

かと問い、桂の樹のもとでは、その樹形と赤い若葉と再生の仕組み等に変えて物語る長谷川さんの自然感に共感する。ナントカフクロウやオジロワシを見たいという思いのよぎったのは、オオアカゲラをタツプリと見た時であった。魅せられる者達のはじまりはこうなのかなあ。かくして、楽しくうまかった昼食の印象もこの一日にとけこんで、締めくくりの??アワセ。音だけで自然を知る人々の不思議と共に帰路についていたのであった。

ここは自然が近い。何時までも近いとよいと思う。

〔記録された鳥〕 アオサギ、トビ、キジバト、ヤマゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、コルリ、トラツグミ、クロツグミ、ツグミ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センドタイムシクイ、キクイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、マヒワ、ウソ、イカル、シメ、ニュウナイスズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、以上38種

〔参加者〕 小川高三・家須子、戸津高保・以知子、柳沢信雄・千代子、宮田 久、太丸りつ、澤田幸子、鈴木曠二、吉田尚享、井上公雄、道川 弘・富美子、武沢和義・佐知子、今田和史・瑞樹・琢、高倉まり子、関口健一・誠、西川喜久世、国本昌秀、綿谷千冬、難波茂雄、田辺 至、大坊幸七、高倉龍文、山崎カツエ、浪田良三、早瀬広司、佐々木武己、玉山 武・久美子、吉田慶子、小林則子、園部恭一、長谷川涼子、以上39名

〔担当幹事〕 関口健一、長谷川涼子

〒011 札幌市北区北13条西3丁目13  
北13条団地805

## 「1 泊早朝探鳥会」

60.5.18~19

三浦 スエ

5月18日午後 目的地千歳サンポート・ガーデンに向う。集合の時間には充分余裕はあったけれど、案内図だけを頼りにしている身には、スムーズに目的地に着いたことが、嬉しかった。

3月31日迄根室管内に住んでいた私には、すくすくとよく伸びている樹木が、さわやかに眼についた。定刻には殆どの人が集合した。幹事さんから挨拶があって、ジギスカンパーティが始まった。似た年齢の人達がごく自然な形でグループとなった。パック入りのラムやマトンしか食べていない私には、ここの肉は本当においしかったし、タレの味もよかった。時間が経つと共に、グ

ループの人達も和やかになって歓談がつづいた。明朝は出発が早いからということで、最後の人達も午後10時過ぎにお開きとなった。屋根の下で眠れることに感謝して男女がそれぞれ大部屋に寝袋を持ち込み眠りについた。

朝4時、予定通り全員集合、心地よい眠りから離れ難かったろう人達もおくれずに列に入る。探鳥会の1日は、ややうす曇りにはじまり、後半は晴れて終わった。

長年探鳥会経験のHさんのいうには、探鳥会としては最高のコンディションに恵まれたとのことであった。千歳川に沿っての長い道のりをバテる人もなく楽しい探鳥会であった。感激の幾場面かを思い出すと、近くでゆっ

くり観察出来たものが印象に残る。その一つオオルリである。あの色を、るり色というのかと……。その二つ、復路後半のハルニレの木であったろうか。あまり高くない枝にゆっくり止ってくれて、じっとして動かなかった数組のアオバト。そして姿を見ることは出来なかったけれど、啼き声を聞かせてくれただけで眼の前を直線のように飛んで行ったアカショウビン等々……………。

忘れない中にとまって急いで書いて居る。何よりも天候に恵まれたこと、親切にプロミナをのぞかせて下さったことや又おやつのおさし入れをして下さったこと等参加者老若男女を問わず和やかな探鳥会であったことを特記したい。最後になったけれど幹事さんに御苦労様を言って感想文の責を了えたい。

〔記録された鳥〕 アオサギ、オオハクチョウ、マガモ、トビ、オオタカ、キジ、オオジシギ、キジバト、アオバト、ツツドリ、ヤマセミ、アカショウビン、ヤマゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラ、イワツバメ、キセキ

レイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、カワガラス、コルリ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キクイタダキ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、イカル、シメ、ニューナイズメ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、以上53種

〔参加者〕 三浦二郎・スエ、羽田恭子、白沢昌彦・光明、早瀬広司、福岡研也・正樹、園部恭一、田辺 至、戸津高保・以知子、高田雅之・早苗、武沢和義・佐知子、神崎みちえ、松井由紀子、佐々木武己、玉山 武、井上公雄、伊沢雅子、宮田 久、堀内 進、長谷川良子以上25名

〔担当幹事〕 堀内 進、長谷川良子

〒059-12 苫小牧市樽前394-1003 三浦 スエ



〔鷓 川〕

昭和60年8月25日(日)  
牧場を抜けて、鷓川の河口へ出ます。干潟では、越冬地に向かう途中のシギやチドリの仲間—オグロシ

ギ・アオアシシギ、ムナグロ・トウネンなどが見られるでしょう。この頃は夏羽が残っているものもいますので、それも楽しみです。また、アジサシやカモメの類、ノビタキなどの草原の鳥もみられるでしょう。

午前9時10分国鉄鷓川駅前集合  
(札幌午前7時20分発急行えりも2号)

〔張 碓〕

昭和60年9月7日(土)  
アオバトは私達でもオス、メスの区別がつく鳥だという事を、御存じでしたか。いつもの岩に、群れて海水を飲みにくる所を観察します。岸壁ではハヤブサやイソヒヨドリもみられるでしょう。

午後2時10分 中央バス札幌線張碓停留所集合  
(札幌駅前ターミナル午後1時10分発にお乗り下さい)

〔鷓 川〕

昭和60年9月15日(日)  
水際だけでなく、牧場・草原にも目を向けましょう。

意外な所にも、シギやチドリの姿がみられます。ソリハシシギ・オオソリハシシギ・ダイゼン・キリアイ、チュウシャクシギなどがみられるでしょう。アカエリヒレアシシギやカモ達も、浮かんでいる時もあります。  
午前9時10分 国鉄鷓川駅前集合  
(札幌午前7時20分発 急行えりも2号)

〔野幌森林公園〕

昭和60年10月27日(日)  
北からの渡り鳥の声が聞かれる季節です。野幌の森は落葉が進み、日を逐って明るくなってきます。昨年の探鳥会ではツグミ・マミチャジナイ・キレンジャク・ヒレンジャク・カシラダカ・ルリビタキなどがみられるでしょう。さて、今年はどんな鳥達に会えるでしょうか。  
午前9時30分 大沢駐車場入口、または午前8時30分百年記念塔前集合

〔野幌森林公園を歩きましょう〕

昭和60年9月22日(日) 10月6日(日) 午前9時30分 大沢駐車場入口、または午前8時30分百年記念塔前集合。  
いずれの探鳥会も、ひどい暴風雨でないかぎり行います。昼食・筆記用具・観察用具をご用意下さい。  
探鳥会のお問い合わせは、長谷川011-865-1735まで。

— 60年度 探鳥会予定表 —

年月日	探鳥地	集 合 場 所	集合時間	その他
60 4 14 (日)	歩	※	※	
21 (日)	野幌森林公園	※	※	
28 (日)	野幌森林公園	※	※	
5 5 (日)	野幌森林公園	※	※	
18 (土)	千歳川周辺	サンポートガーデン	19:00	夕食はジンギス汗鍋 19日4時から探鳥開始
19 (日)	一泊早朝探鳥会	(列車・バスの場合千歳駅待合室18:30)	30	
26 (日)	歩	※	※	
6 9 (日)	歩			
16 (日)	植苗・ウトナイ湖	国鉄千歳線植苗駅前	9:10	
23 (日)	東米里	市営バス米里線東米里小学校前停留所	9:00	
7 7 (日)	福 移	市営バス札苗線福移入り口停留所	8:30	
14 (日)	歩	※	※	
8 25 (日)	鷓 川	国鉄日高本線鷓川駅前	9:10	
9 7 (土)	張 碓	中央バス札幌線張碓停留所	14:10	札幌駅前ターミナル 13:10発にお乗り下さい。
15 (日)	鷓 川	国鉄日高本線鷓川駅前	9:10	
22 (日)	歩	※	※	
10 6 (日)	歩	※	※	
27 (日)	野幌森林公園	※	※	
11 10 (日)	歩	※	※	
17 (日)	ウトナイ湖	ウトナイレイクホテル湖畔側	10:00	
12 1 (日)	歩			
15 (日)	小樽港	国鉄函館本線小樽駅待合室	10:00	バス利用になる予定
61 1 26 (日)	藤の沢	白鳥園	10:00	定鉄バス定山溪線 藤の沢下車徒歩20分
2 16 (日)	野幌森林公園 スキー探鳥会	国鉄函館本線大麻駅待合室	9:00	歩行に適したスキー か要ります
3 2 (日)	円山公園	円山公園管理事務所前	10:00	午前中解散
30 (日)	ウトナイ湖	ウトナイレイクホテル湖畔側	10:00	

歩 = 野幌森林公園を歩きましょう

※ 野幌森林公園での探鳥会および歩きましょうの場合は大沢駐車場入口・午前9時30分  
(または百年記念塔前 8時30分) 集合になります。(2月スキー探鳥会は除く)

※ 都合により変更となる場合もありますので、前もって『野鳥だより・探鳥会案内』でお確かめ下さい。



◆定例幹事会報告

60年2月6日(水) 19時  
10分～20時30分  
札幌市民会館会議室 出席  
幹事11名  
〔審議内容〕

1. 自然保護協会への謝礼の件
2. 昭和60年の総会開催の話合いが行なわれた。  
日時は4月20日(土)午後2時にきまったが、会場については1、2上げられ、これから問い合わせをする。
3. 野鳥写真展の開催についての話合いがあった。
4. 絵はがき作成の中間報告。
5. 野鳥だより59号の掲載事項。メ切込に原稿提出の依頼。
6. 60年度探鳥会は基本的には前年度に沿って行く。
7. 会費納入状況の説明があった。
8. 小樽の探鳥会風景が地方紙に掲載された。
9. 藤の沢探鳥会の経過報告。
10. 国際標準逐次刊行物番号(0910-2396)が次号から記入される。(会報58号で紹介済み)

◆定例幹事会報告

60年3月6日(水) 18時30分～21時市民会館会議室、出席幹事13名

〔審議内容〕

1. 総会資料の原稿を次の4月の幹事会に各部それぞれ用意することにした。
2. これまでの本会で実施した探鳥会の結果を集大成するため、資料整理、今後の業務分担等をきめた。
3. 「全国野鳥保護のつどい」に合わせて野幌開拓記念館で行われる野鳥展に本会会員の写真を提供することとした。
4. 本会の野鳥写真展の開催準備について打合せた。

◆定例幹事会報告

60年4月3日(水) 18時30分～20時30分、札幌市民会館会議室、出席幹事13名

1. 過去15年間の探鳥会記録作成の具体案の説明と、幹事会日程の案内があった。
2. 総務より今年度事業計画案の説明と、幹事会日程の案内があった。
3. 昨年度新しく行われた探鳥会は、今年も継続する事に決まった。
4. 野鳥だより59号の発行について説明があった。

◆定例幹事会報告

60年6月5日(水) 18時30分～20時30分

市民会館会議室 出席幹事11名

〔審議内容〕

1. 絵ハガキの販売促進について
2. 幹事会の曜日の見直しについて
3. 野鳥写真展、開催準備内容について
4. 役員会の開催について
5. 広報より野鳥だよりの誌面に掲載する内容提案、写真カット、イラスト等の提出要望について
6. 北海道自然保護協会、自然観察会と愛護会、探鳥会との共催についての件

◆絵はがきの頒布について

当会作成の絵はがき「北海道の珍しい鳥たち」については幸い好評を得て、会員から頒布を希望する声がありますので、つぎの会員価格により頒布することとしました。お申し込みください。

◇ 価 格 セット250円(送料別)

◇ 払込先 札幌市北1条西7丁目広井ビル5F気付  
北海道野鳥愛護会エゾフクロウ係  
郵便振替小樽6-16219

◇ 送 料

1セット	170円
2セットから～4セットまで	240円
5セットから～9セットまで	350円
10セット	700円

〔注〕 上記の送料を価格に加えて振込んでください。

◆フォトライブラリーの設置について

編集部では、このたび、野鳥だよりの誌面にできる限り写真やイラストを使い見て楽しめるものになりたいと思い、フォトライブラリーを作ることにいたしました。

皆さんの写真等を下記の要領で預り表紙写真あるいは誌面の中にのせていきたいと思っておりますので、どしどし事務局あてお送りください。

なお、預った写真等は、本会に關係する事業だけに使用するもので、他人等への転貸は一切いたしません。

また、掲載のために使用した場合であっても、本会が設置されている趣旨からいたしまして、特別な謝礼はありませんので予めご承知下さい。

記

1. 対象 鳥に關係する写真(白黒、カラー問わず)イラストなど。特にカットがないのでぜひお願いしたい。

2. 大きさ、表紙写真の場合は六ツ切り、その他はサービス版以上(写真はプリントしたもの)

3. 留意事項

(1) 提出作品の裏面には、撮影者氏名・年月・場所・種名を必ず書き、できれば簡単な説明も合わせて別紙でお願いいたします。

(2) 提出点数 何点でも結構です。

(3) 預り期間は、提出日から2年といたします。期限到来の折りには、継続の有無について確認いたします。

(4) 送付先は、本会事務局編集部あてです。

◆鳥学コーナー

鳥に關することがらについて学ぼうということで、このコーナーを設けました。

鳥に關する知識を豊かにし、鳥博士?になりませんか。

なお、編集部では、会員の皆さんの質問、掲載を希望することがら等をお待ちしておりますので、何でも結構ですからどしどし寄せていただき、実りあるものになりたいと考えておりますので、協力をお願いします。

◆写真展終わる

恒例の写真展は、5月27日から6月7日まで三菱信託銀行において好評のうちに終了しました。多数の応募をいただき厚くお礼申し上げます。撮影者の感動がレンズを通してこちらまで伝わってくる力作ぞろいでありました。また来期に備え今日から傑作に取りくんでくださるよう期待しております。

なお、会場の關係で1人3点以内にしほらせていただきましたことをご了承ください。

出品者のご氏名は次のとおりです。

和田 淳、柴田直臣、村野紀雄、船造淳一、小堀雄治、梅木賢俊、富川 徹、柳沢信雄、柳沢千代子、小山弘昭、山田良造、山本 一、速水藤二郎、大坊幸七(順不同)

◆お詫び

59号の探鳥地案内「鱒沼」で寄稿者名が抜けていました。猪口卓さん江別市文京台南町30-15です。申し訳ありませんでした。深くお詫び致します。

〔北海道野鳥愛護会〕 年会費 1,500円(会計年度4月より) 郵便振替 小樽18287  
☎060 札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル5階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465